

'21ミス日本「海の日」吉田さくらさん

◆【さくらの休日 第3回】①

ミス日本「海の日」の活動で学んだ「海」の現状・問題・可能性

【青い羽根募金】

ある時、友人に「青い羽根募金」を知っているか聞いてみたところ、知らないという人が多く、とても驚きました。赤や緑色などの羽根募金があるなか、青い羽根募金は残念ながら十分認知度があるとは言えないのかもしれないかもしれません

海で事故が起きた時、海上保安庁だけでなく、民間のボランティア救助員も出動することがあります。青い羽根募金は、海で遭難した人々の救助活動にあたる全国のボランティア救助員の方々約5万2000人を支援するための募金です。海難救助は、非常に厳しい条件の中で行われるため、効果的かつ安全な救助活動を行うことができるよう救助員は、常日頃から組織的な訓練を行っています。

さらにライフジャケット、ロープなどの救助資機材の整備や救助船の燃料なども必要となります。そして、これらに必要な資金は、全国的な募金活動などによって集められています。

私は、海難救助活動にあたるボランティアの方々の存在、そしてボランティアを支える方々の存在をさらに多くの人に知ってもらいたいと思い、ミス日本「海の日」の活動を通して「青い羽根募金」を広める活動に力を入れていこうと思っています。

今年の4月下旬、私は青い羽根募金活動を行っている公益社団法人日本水難救済会を表敬訪問しました。日本水難救済会は沿岸海域で遭難した人や、船の救助に駆けつける民間ボランティア救助員を支援するとともに、遥か洋上の傷病船員などへの救急医療事業を運営する団体です。

日本水難救済会の方々とお会いして、日本水難救済会の歴史や海難救助事業について詳しくお話していただきました。特に印象的であったのは、全国のボランティアの方々が参加する救助訓練です。船舶や岸壁などからの海中転落および海水浴場での溺者を想定しての救出・搬送訓練をはじめ、AEDの取扱い訓練を取り入れた心肺蘇生法訓練まで、幅広い種類の過酷な訓練内容に驚きました。

救助に必要な知識、救助技術の向上を図り、効果的な海難救助および災害支援を行うため、懸命に訓練に取り組まれるボランティア救助員の方々に尊敬の念を抱きました。

あらためて民間ボランティア救助員一人一人の協力とボランティアを支える青い羽根募金によって安全な海が守られ、私たちが海水浴やマリッジを楽しんでいると知ることができました。

私は今年度の青い羽根募金ポスターキャラクターを務めています。青い羽根募金への協力を呼びかけるとともに、青い羽根募金に関わる方々の思いやボランティア救助員の方々の活躍をリアルに伝えられるような活動をしていきたいです。